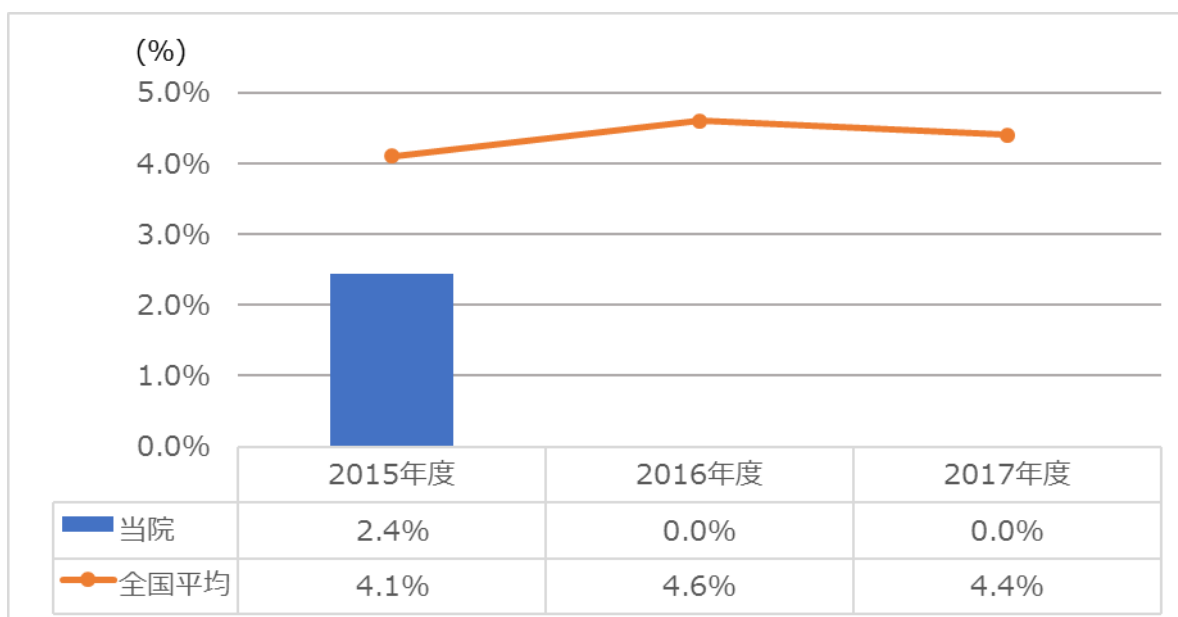


指標 4 喘息入院患者における退院後 30 日間以内の同一施設再入院割合



<定義>

分子	分母のうち、退院後 30 日間以内に喘息に関連した原因で再入院した症例数
分母	喘息に関連した原因による 5 歳以上の入院症例数
期間	2015 年度～2017 年度（1 年毎に集計）
対象	上記期間の退院患者
値の解釈	低い方が望ましい

<解説>

喘息は気管支がアレルギー性炎症により狭くなり息苦しくなる病気です。近年、吸入ステロイドなど標準治療の普及は症状コントロールを改善し、多くの患者さんに健康な日常をもたらしました。しかしながら、重篤な発作を起こす方がいるのも事実で、このような患者さん方の入院受け入れも呼吸器内科の役割です。重症喘息もきちんとした薬物療法や病態に関する理解を深めてもらうことで、退院後に再び悪化することは少なくなります。当院では適切な治療や教育などを通じて、喘息による再入院率を極めて低く抑えることに成功しています。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIPにおける計測結果）